

OLYMPUS



内視鏡AI操作支援技術の研究開発 (SIPAIH22C01)

AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム
成果発表シンポジウム 2022

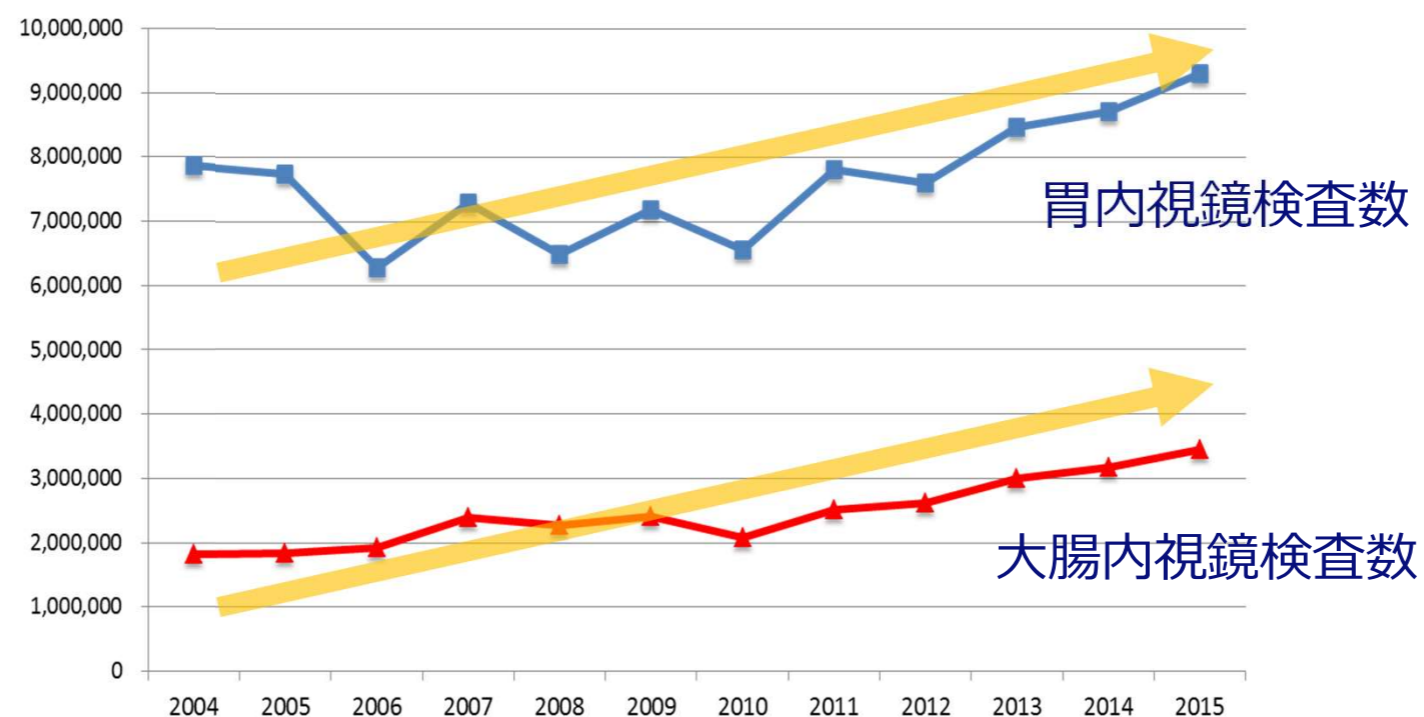
研究責任者 池田 裕一 オリンパスメディカルシステムズ株式会社

研究開発の要旨

- 世界的に増加が顕著である大腸内視鏡検査は、難易度が高く、検査品質の担保に高度なスキルが要求され、医師にとって時間や労力の負荷が大きい。
- 本研究開発では**センサを用い、より安全に、より容易に大腸内視鏡検査を行う内視鏡先端の空間認識技術**、および、**熟練医師の持つ内視鏡操作の高い技能を分析し、AIによって適切な操作を推定する技術**を研究し、これらの技術を搭載した内視鏡AI操作支援システムを開発する。
- 検査時間やトレーニングの短縮、検査中の患者の苦痛低減等を実現するとともに、高度診療の提供に資する検査情報等のデータ活用を目指す。**



大腸内視鏡



総計 約1,400万例

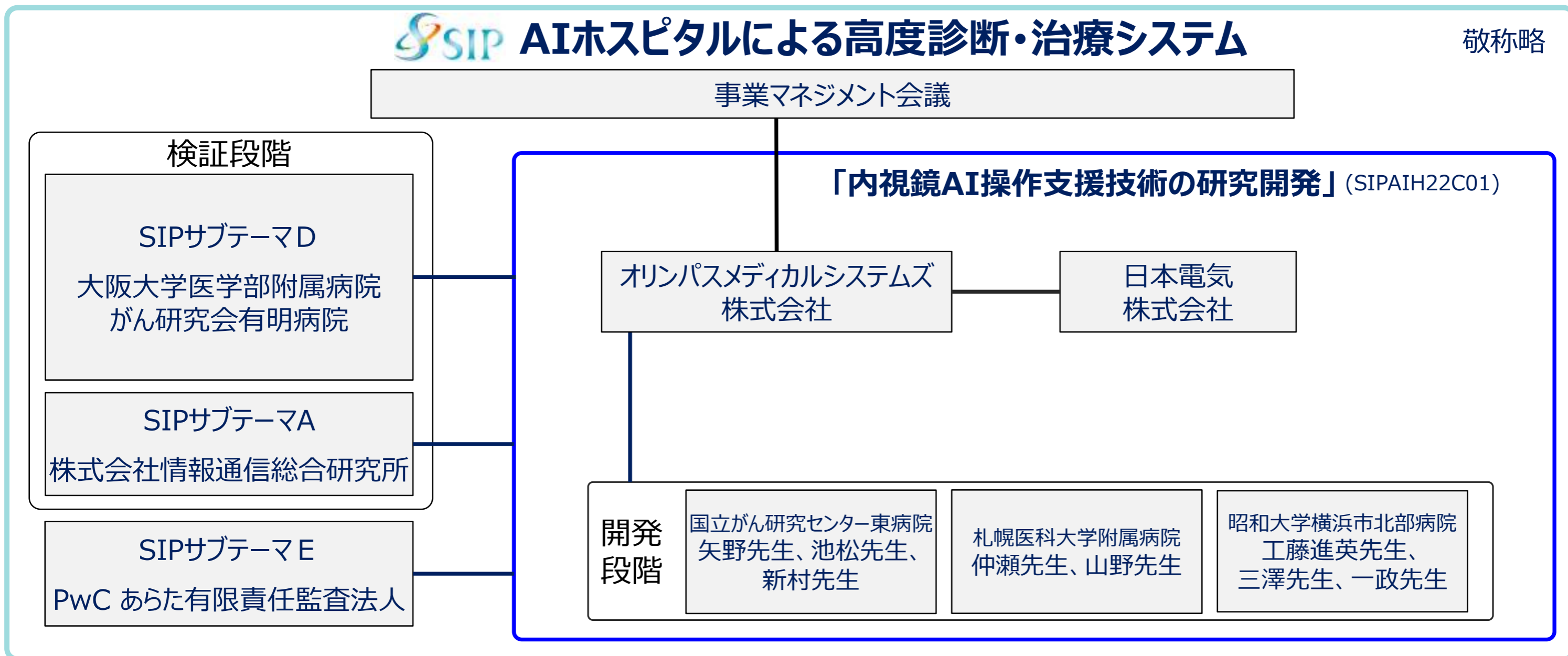
国内消化器内視鏡検査症例数（保険診療分）

出典：厚生労働統計『社会診療行為別統計』 2004年～2015年のデータを元に作成

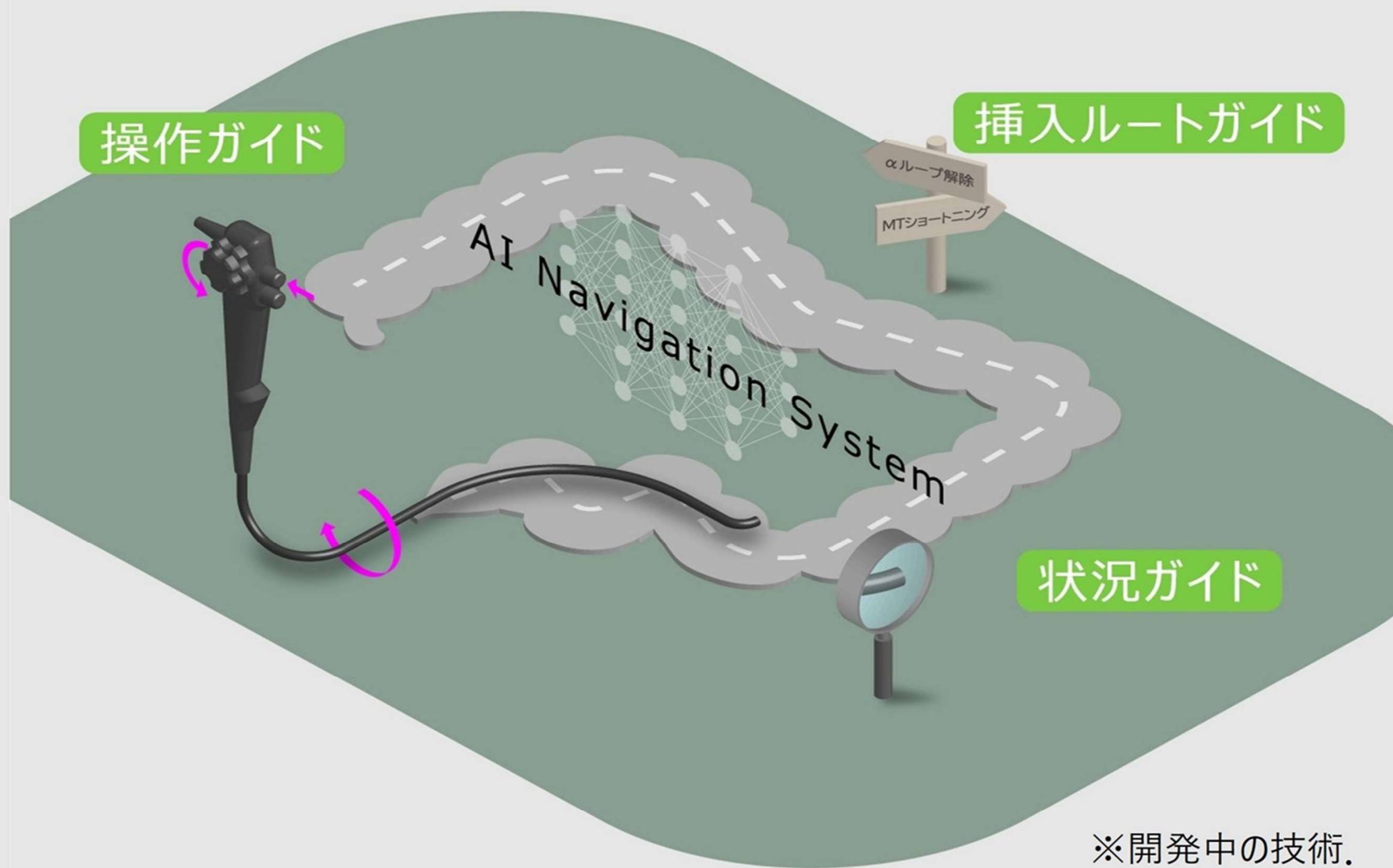
研究開発の体制

SIP AIホスピタルによる高度診断・治療システム

敬称略



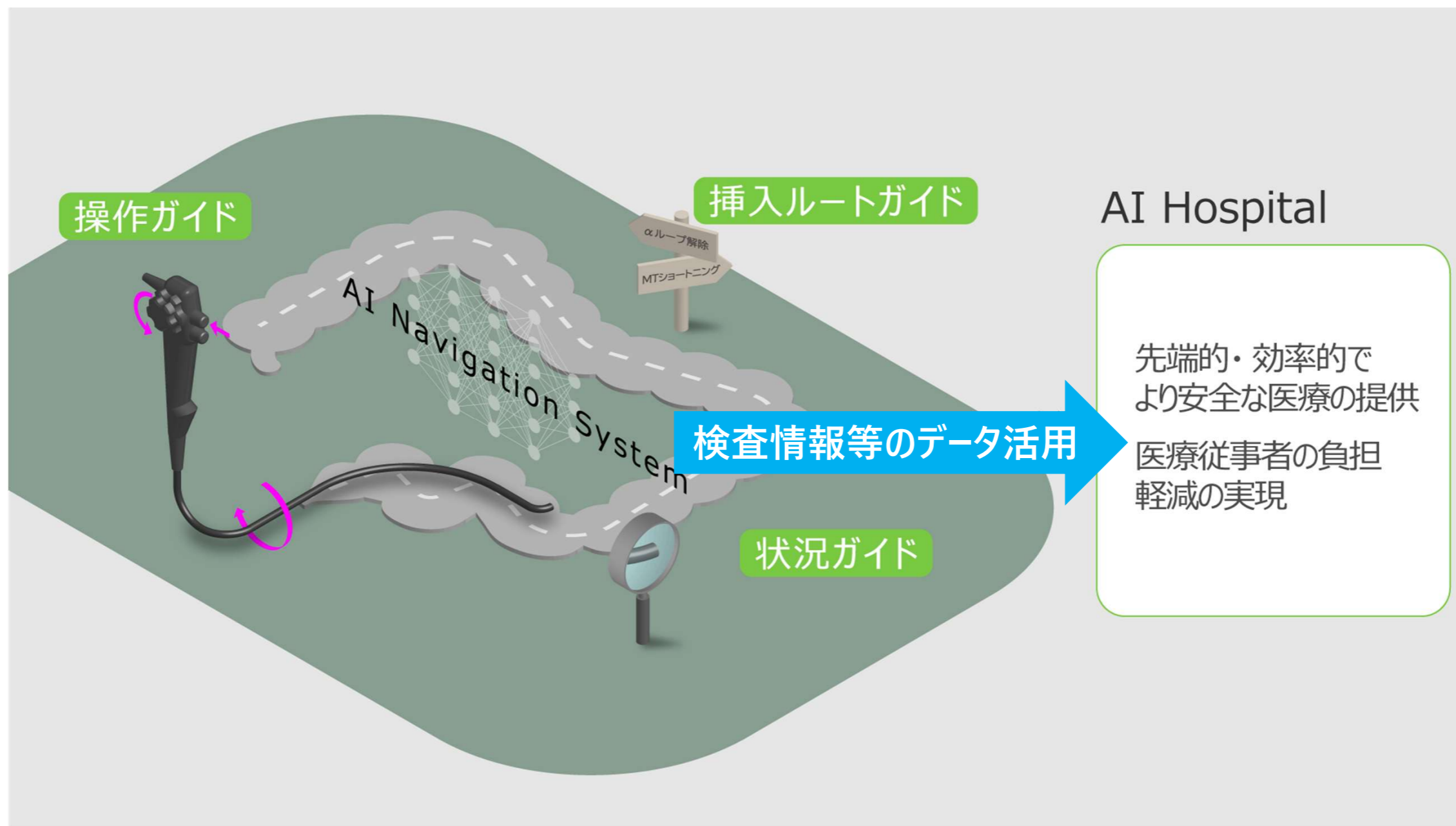
成果1



※開発中の技術.
※医薬品医療機器等法未承認.

ビデオで成果を紹介

成果2 内視鏡AI操作支援システムからの検査情報等のデータ活用検証完了

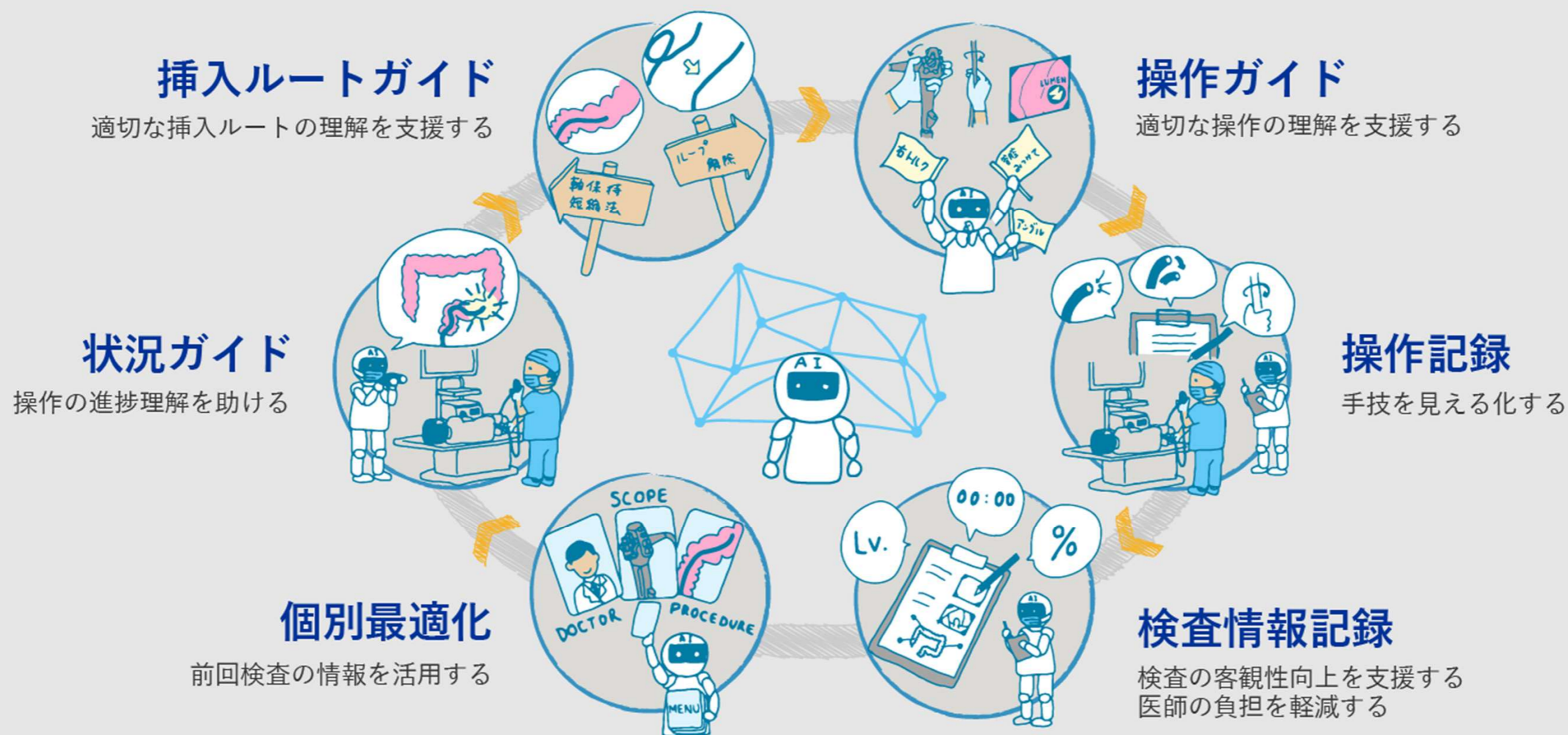


※開発中の技術。
※医薬品医療機器等法未承認。

成果の活用

※開発中の技術です。
※医薬品医療機器等法未承認。

AI ナビゲーションシステム



トレーニングレス

患者さん苦痛度低減

セデーション低減

OLYMPUS

A thick, yellow, horizontal swoosh underline that tapers slightly at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".